Asia & World
タイ・バンコク情報

「Bike for Dad」
～自転車の普及促進とその現状～

text by 滋賀銀行 バンコク駐在員事務所　ピヤヌット・チラワットピンヨー

12月5日のタイ国王誕生日の祝賀行事として、2015年12月11日バンコク都内でサイクリングイベント「Bike for Dad」が開催された。交通渋滞緩和のため、自転車利用を促進したいタイ政府の取り組みと課題についてレポートする。

閉鎖された車道を埋めつくすかのように、自転車で走行する参加者たち。観覧者も多く、そのにぎわいは夜遅くまで続いた

60万人が参加した「Bike for Dad」

プミポン国王の長寿を願う国王誕生日の祝賀イベントとして、サイクリングイベント「Bike for Dad」が政府主催で2015年12月11日に開催された。当日は、バンコクだけでなく、タイ各地や海外70カ所でも催され、総勢60万人以上が参加した。

コースの全長は29㎞。皇太子やプラユット首相などの著名人を先頭に、参加者は午後3時頃王宮をスタート、バンコク都内を3時間ほどかけて走行した。沿道にも多くの人が集まり、「ソン・プラチャルーン」（国王様が長生きしますように）と声を掛けては、イベントを盛り上げていた。

近年タイでは大規模なサイクリングイベントが多数開かれている。その背景には自転車利用を促進し、交通渋滞緩和につなげようとする政府の意向と、人々の健康志向の高まりによって富裕層の若者を中心に自転車が愛用されていることが挙げられる。

都内を走るBTS（高架鉄道）やMRT（地下鉄）では自転車の持ち込みが可能だ。イベント当日は環境に配慮した取り組みとして、BTSに自転車を持ち込んだ人は運賃が無料に、MRTでも開催日は運賃が半額となる措置が取られた。

8月にバンコク爆発テロ事件が発生、開催直前には過激派組織「イスラム国」関係者のタイ入国報道があったため、開催にあたっては、テロに対して厳戒な警備体制が敷かれた。開催当日はバンコク都内の主要道路が正午から午後9時にわたって閉鎖されたほか、皇太子ら著名人が通過する際には近くのスカイウォークやBTSなども一時閉鎖するなどの交通規制が行われた。これにより、交通渋滞緩和につなげたい政府の思いとは裏腹に、各地で渋滞が発生。また開催日が1カ月前に急きょ祝日になるなど、経済活動にとっては厳しい一面もあった。

専用レーン整備で渋滞緩和と観光利用へ

タイ政府は改善が進まない交通渋滞を自転車の利用促進によって何とか緩和させようと躍起になっている。

インフラ整備のため、バンコクおよびチェンマイ等の地方都市に予算を割り当て、自転車専用レーン設置工事を進めている。現在バンコク都内には31カ所、232㎞の自転車専用レーンが設置されており、今後さらに10カ所の追加設置を予定している。また、タイでは電線が束になって無造作に垂れ下がっていたり、ちぎれてぶら下がっていたりして通れない歩道が多く、これらの電線を地中化して取り除く歩道整備が進められている。

富裕層を中心に人気のロードバイク

レンタル自転車サービス「PUN-PUN」

バンコク市内の歩道では電線が束になって垂れ下がっている

さらに、バンコクでは「PUN-PUN（パン パン）」という自動システムのレンタル自転車サービスが13年より開始された。バンコク都内のBTSやMRTの路線がない地域でレンタル自転車を利用してもらう仕組みだ。現在都内50カ所に363台のレンタル自転車が設置されている。

渋滞緩和の目的のほか、自転車を観光に役立てようとする動きもみられる。バンコク都内では観光名所である王宮付近に8㎞の自転車専用レーンが設置され、観光客が自転車で観光できる仕組みを整えている。観光客にとっては自動車の渋滞によるストレスから解放されるほか、車での移動では見逃しがちな景観が楽しめると好評だ。観光先での自転車利用者も年々増加しており、13年26万人、14年32万人と増加。15年は40万人もの利用があった。

今後の課題

15年のタイでの自転車市場規模は50億バーツ（158億円※14年比200%）、自転車の平均購入価格も14年の10,000バーツ（31,670円）から15年は15,000バーツ（47,505円）に上昇し、購入者の高級志向が顕著になっている。だが、民間団体の調査によると自転車普及率は国全体でまだ6%と、政府が普及活動に力を入れているにもかかわらず国民に浸透しているとは言い難い状況だ。

自転車専用レーン以外の大半の道路では段差や損壊なども多く、老若男女が自転車を気軽に利用できる環境はまだ整っていない。自転車専用レーンをマナーの悪いバイクがわが物顔で通るなど、交通マナーが守られず利用者に危険が伴うこともある。自転車の利用を促してもそれに伴うインフラ整備や安全への意識付けが追い付いていない。そのため、自転車はあくまで「趣味」としての利用にとどまり、政府のもくろみである渋滞解消のツールとしてはまだ機能していない。自転車を交通手段として利用するには、今回のイベントのように道路を遮断するしかないのが現状で利用者拡大への課題は山積みだ。

今回のサイクリングイベントに注目が集まったことで、タイ国内の道路インフラの改善が促され、日常生活や観光での自転車利用増加が進み、渋滞緩和に貢献するとともに、人々の健康促進、環境志向の高まりに寄与することを期待したい。

※為替レートは2016年2月19日現在のものです

Asia & World TOPICS

広深港高速鉄道・福田駅開業

香港～深圳～広州を結ぶ「広深港高速鉄道」の地下駅・福田駅（深圳）が2015年12月に開業した。同駅は高速鉄道の駅として中国で初めて都市中心部に建設された地下駅で、地下3階建て構造、延べ床面積は14万7,000㎡と、地下にある駅としてはアジア最大規模を誇る。

今回、深圳北駅から香港との国境に近い福田駅まで「広深港高速鉄道」を延伸した結果、北京から深圳中心部まで高速鉄道での移動が可能となり、中国沿岸部各地から北京へのアクセスは格段に向上した。「広深港高速鉄道」は最終的に香港の西九龍駅まで延伸する。香港区間の工事の遅れから、完成予定は17年末から18年7～9月にずれ込むものの、開通への期待は大きい。福田駅と香港西九龍駅の所要時間は約15分、香港と中国大陸内陸部との移動時間は飛躍的に短縮される。

福田駅はビジネス街に位置し、近隣の企業の利便性は確かに向上した。一方で、香港から広州へ移動する手段は、「広九直通車」（香港・ホンハム駅～広州東駅の直通列車）や「広深和階号」（香港の羅湖駅経由、深圳～広州）などがあり、移動時間やイミグレーションの混雑などを考えると現状ではこれらの列車の方が便利だ。また、地元のタクシー運転手ですら福田駅の存在を知らないほど認知度が低いため、通路や待合スペースにも人はまばらで、まだまだ本格稼働とは言い難い。

香港～広東省のボーダレス化の象徴、18年の「広深港高速鉄道」全面開通時には、福田駅の“存在価値”が大きく高まっていることに期待する。

「しがぎんアジア月報」2月号より　香港支店　冨田　達也

新しく開業した福田駅